

第0章 受入れ側の心構え

外国人を受け入れる際、受入れ側が知るべきことや、心構えがたくさんあります。受け入れることになった経緯や、外国人従業員の国の文化や習慣、宗教や考え方について関心を持ち、それらを知ることにより、同じ会社の一員として受け入れるための意識が高まり、信頼関係が構築されやすくなります。外国人従業員と受入れ側の相互理解を深め、双方にとって働きやすい職場環境を整えましょう。

(1) 外国人受入れの経緯について従業員全員で把握しておきましょう！

- なぜ外国人を雇用することになったのでしょうか。企業が外国人を雇用するには必ず理由があります。外国人を雇用することになった経緯を社内全体で把握し、自社には外国人社員が必要であるという共通認識を持ち、今後の社内の受入方針や体制について共通理解を得ておきましょう。
- 雇用する側が受入れのための準備や覚悟をしているように、雇用される側の外国人も覚悟を決めて来日しています。日本に夢と希望を抱いて来日する外国人も少なくありません。そのことを心に留め、日本人と外国人双方にとって協働しやすい就労環境の整備に努めましょう。

(2) 在留資格について知っておきましょう！

- 日本で暮らす外国人はそれぞれ「在留資格」を持っており、「在留資格」ごとに、就労の可否や、携わることができる業務内容とその範囲、また在留期間が定められています。「在留資格外」の業務に従事させることは違法です。
- 共に働く外国人従業員の「在留資格」の種類について、今一度確認しましょう。確認をすることで、資格外の業務を依頼するトラブルを避けることができます。

(3) 諸外国の事情について理解を深めましょう！ ⇒ 資料：諸外国事情を参照

- 共に働く外国人従業員は、どの国から来て、その国はどのような制度、文化、生活習慣があるのでしょうか。彼らの背景に興味を持ち、それらを知ろうとすることは、外国人従業員にとって非常に嬉しいことです。
- 互いの文化や生活習慣に興味を持ち、違いを知り、それらを尊重することで、調和のとれた多様性のある組織を目指しましょう。

(4) 外国人従業員への接し方について理解しておきましょう！

- 外国人従業員と接する時、どのような接し方をすると信頼関係が生まれ、お互いの距離が縮まるでしょうか。**日常の簡単な行動を意識**することで、距離感が大きく縮まることがあります。例えば、以下①～⑤のような取り組みを心掛け、より円滑な人間関係を構築しましょう。
- 教える側の姿勢として「**知っていて当たり前**」と思わず、「**ゼロベース**」で根気強く付き合う覚悟を持つと良いでしょう。また外国人は「**言葉の壁**」や「**文化・習慣の違い**」から、常にストレスのかかる生活を送っていることを念頭において接することが必要です。

- ① **名前やニックネームで呼びましょう。**いつまでたっても名前でも呼んでもらえず（名前を覚えてもらえず）、関心を持ってもらえていない、大切にされていないと寂しく感じる外国人は少なくありません。（⇒付録：社員紹介シートを活用し、外国人社員の名前を社内に広く周知しましょう。）
- ② **こちらから挨拶をしましょう。**日本語に自信がないため、はじめのうちは簡単な挨拶もためらう場合もあります。**日本人から気軽に挨拶をすることで、外国人は自分が会社の一員として認められているという実感を持つことができ、安心して仕事に打ち込むことができます。**
- ③ 行政手続きや生活面で必要なこと（ゴミ出しや買い物、病院の行き方）、公共交通機関の乗り方など、**一緒に同行してサポート**することで、外国人は不安や負担を軽減させることができ、日本人社員との関係性もぐっと近づきます。
- ④ **地域のイベント（お祭りやスポーツ交流）やボランティア活動（地域の清掃活動など）と一緒に参加したり、一緒に野菜を育てたりするなど、日本人と外国人が仕事以外の場で交流できる機会を設けましょう。**職場では見られない外国人従業員の新たな一面を発見するとともに、互いの関係性を深める良い機会となります。また、地域との良い関係も生まれ、**地域社会における会社のプレゼンスも向上**することでしょう。外国人自身も**仕事以外の場で自分の存在価値を認めてもらう機会や自分の役割を見出す機会を得る**ことができ、日本での生活や仕事への意欲向上につながります。
- ⑤ **仕事におけるキャリアの道筋や少し先の未来（夢や希望）を示しましょう。**「将来自分で何をやりたいか」「日本語を勉強する意義は何か」など、進むべき方向性や目標が定まると仕事に対する集中力やモチベーションが上がり、仕事の効率や精度、成果が格段にアップします。

(5) 外国人従業員への話し方について意識しましょう！

- 仕事の指示や指導の内容が正しく伝わっていなかったなど、雇用した外国人と思うように意思疎通が取れなくて困ったことはありませんか。日本語の読み書きができる外国人の場合でも、いざ実際の会話になると、敬語や曖昧な表現、二重否定などがあることで、私たちが普段何気なく話している日本語を難しいと感じることがあります。
- **話し方を少し工夫するだけで、相手の理解度が格段に上がります。どのように話せば外国人にも伝わりやすい「やさしい日本語」になるのか、そのコツを理解することが大切です。**マニュアルの中でコツを紹介していますので、実践してみてください。「やさしい日本語」を使ってコミュニケーションを取ることで、外国人従業員の日本語力の向上や学習意欲の向上にも繋がります。